

令和5年度 四日市市水道の決算



モンドセレクション3年連続最高金賞受賞

(2020年度～2022年度)

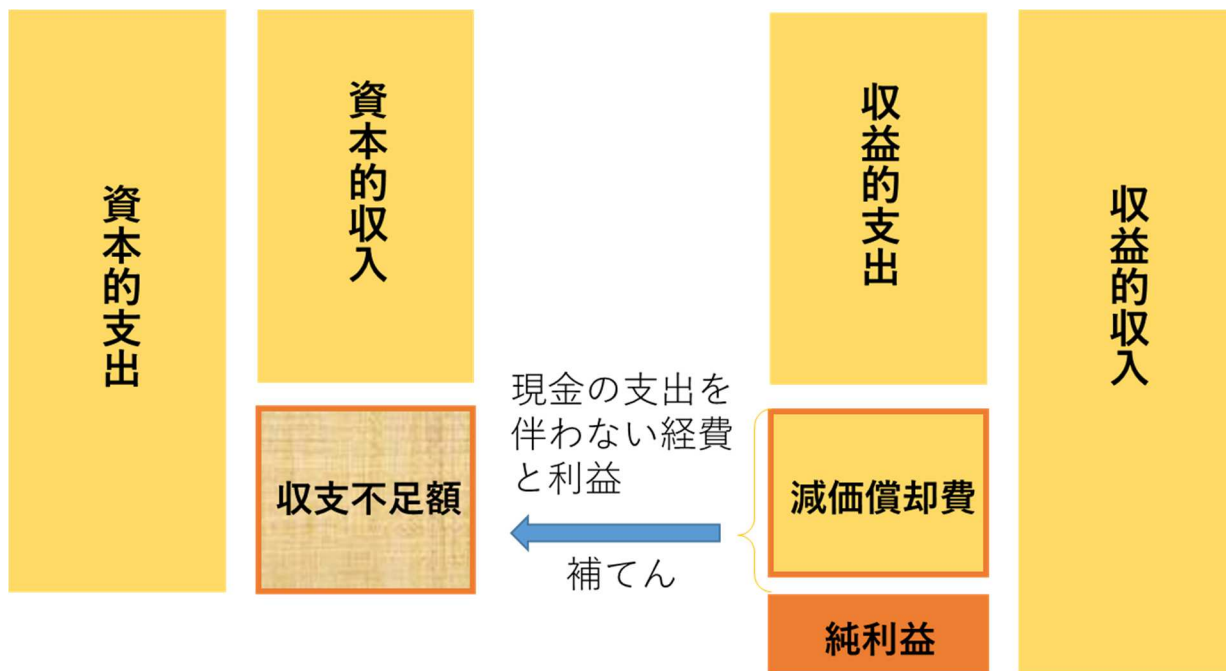
四日市のおいしい天然水 「泗水の里」

四日市市上下水道局

## 1. 水道事業会計の仕組み

水道事業の経営は、発生主義会計、複式簿記を採用しています。経営に必要な費用は、税金ではなく水道料金の収入で賄っています。水道事業の会計は収益的収支と資本的収支で構成されており、それぞれ役割が異なります。

- 発生主義・・・現金の収支の有無にかかわらず、経済活動の発生という事実に基づいて会計処理を行う  
減価償却費などの非現金支出を計上する
- 複式簿記・・・一つの取引を経済価値の増加と他の経済価値の減少という二つの側面から捉え、「借方」と「貸方」の勘定科目に分けて記録するもの
- 収益的収支・・・1年間の経営活動によって生じた収益と費用（維持管理）  
収益・・・水道料金、受託工事収益、受取利息等  
費用・・・施設の維持管理費、減価償却費等
- 資本的収支・・・将来に備えて行う建設投資や企業債償還等の支出とその財源の収入  
収入・・・企業債、工事負担金  
支出・・・工事請負費、企業債元金償還等



## 2. 決算について

決算とは、4月1日から翌年3月31日までの1年間に入ってきたお金（収入）と出ていったお金（支出）を計算し、決算書として財務三表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュ・フロー計算書）などを用いて、経営状況を明らかにするものです。では、令和5年度決算の数字を詳しく見ていきます。

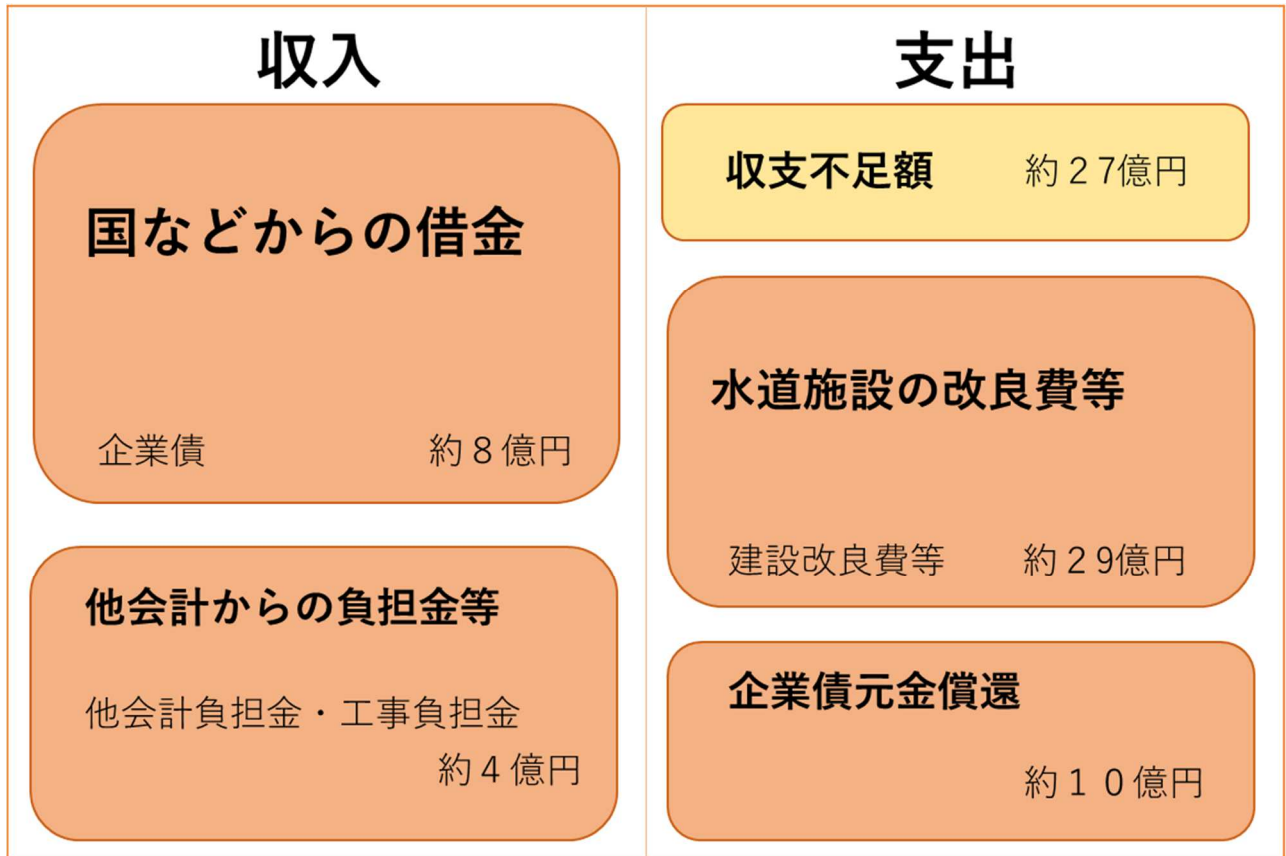
### 【収益的収支（税抜）】

令和5年度の収益的収支は、約80億円の収益に対して約73億円の費用がありました。収益が費用を上回り、純利益は約7億円となりました。収入では、水道料金のほかに他事業の工事により水道管を移動させた場合などにもらう受託工事収益や、減価償却費に含まれる負担金等相当額を収益化する長期前受金戻入などがあります。費用では、施設の維持管理費や固定資産の取得額を耐用年数に応じて費用化する減価償却費などを計上しています。

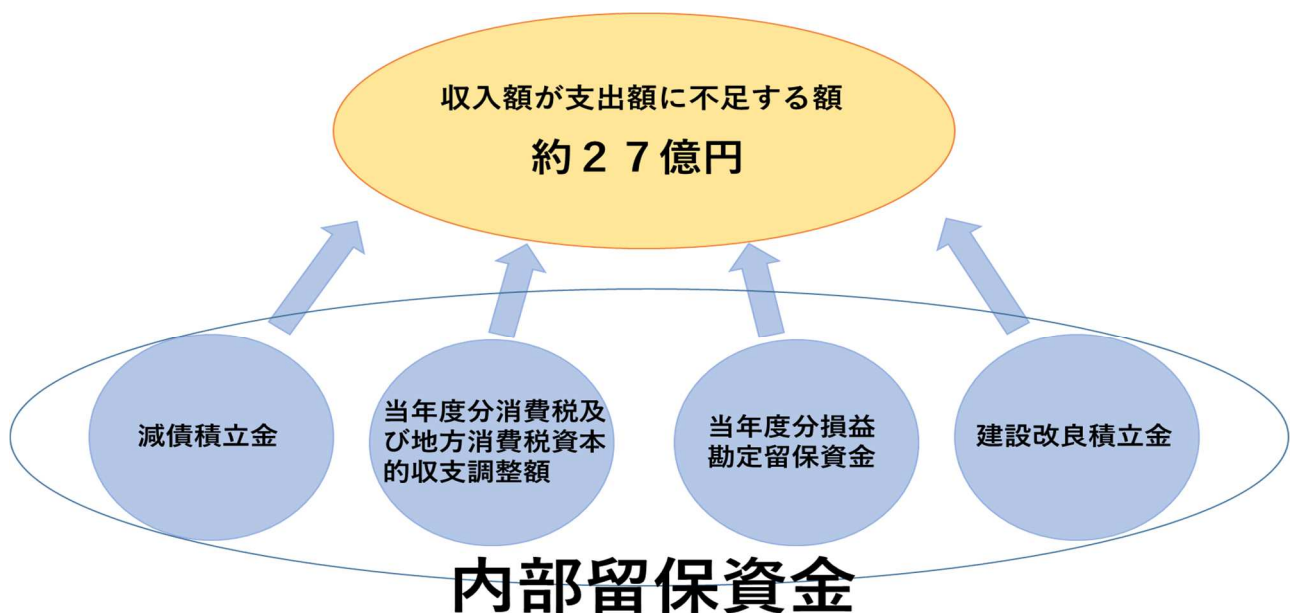


## 【資本的収支】

令和 5 年度の資本的収支は、約 12 億円の収入に対して約 38 億円の支出がありました。収入額が支出額に不足する額は約 27 億円です。水道管の布設替等の水道施設の改良に約 29 億円もかかっていることがわかります。水道事業では、この建設改良費に対して約 8 億円の企業債を借入しています。



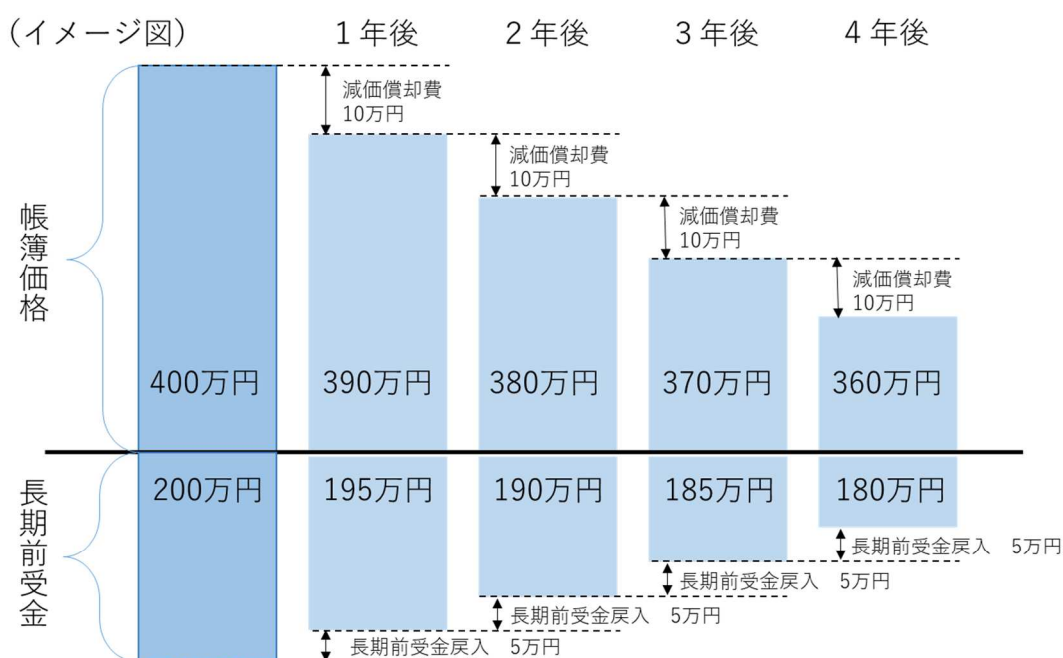
資本的収支では、水道料金のような大きな収入がないので、資本的支出に対して不足額が発生します。この不足額は、水道事業の貯金である留保資金を切り崩して補います。



## 解説①【減価償却費・長期前受金戻入】

減価償却費は、下のイメージ図のとおり、法定耐用年数に合わせて費用に分割し、水道管等の資産の取得額を1年分の費用として表しています。しかし、実際に現金が支出されているのは資産を取得した年なので、1年後から発生する減価償却費は現金の支出がありません。純利益の計算の際には収益的収入から減価償却費を引きます。しかし、実際にはその分の現金は手元に残っていることになります。

長期前受金戻入は、減価償却費の逆のイメージとなります。法定耐用年数に合わせて過去にもらった負担金等を分割し、1年分の収入としています。しかし、実際には現金の収入はありません。



条件：取得価格 400万円（税抜）  
負担金 200万円  
耐用年数 40年

### 四日市市水道事業の減価償却の方法

- ・減価償却の方法 定額法（ただし、量水器については取替法による）
- ・主な耐用年数

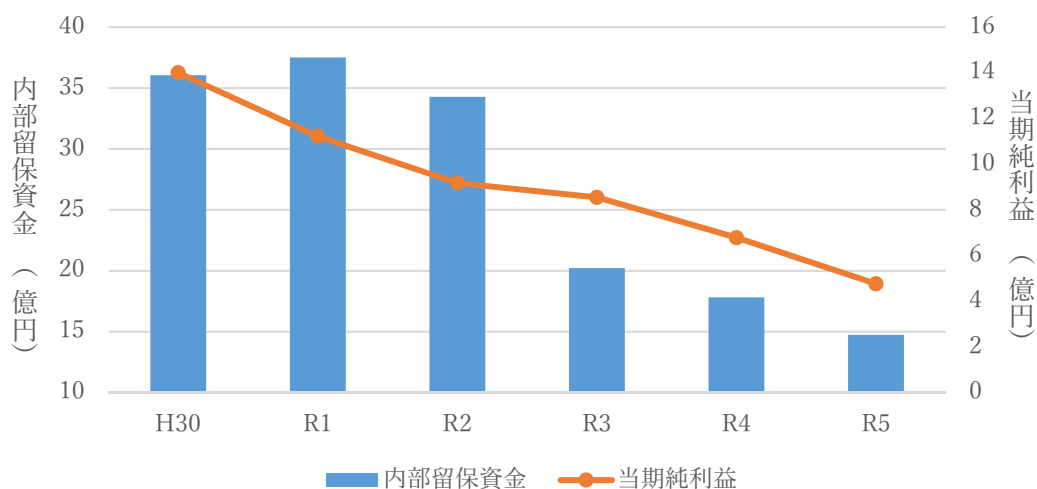
建物	15～50年
構築物	40年
機械及び装置	10～20年
工具器具及び備品	5～10年

## 解説②【内部留保資金】

一般家庭における貯金と同じように、水道事業が蓄えている資金のことです。この資金は収益的収支で発生した純利益を毎年積み立てたもので、資本的収支の不足額を補てんするために使うことができます。今後、更新時期を迎える水道施設のための資金や災害に備えるための資金を内部に留保していく必要があります。令和5年度決算の留保資金は約15億円です。

グラフを見ると、内部資金として留保される当期純利益が年々減少しており、それに伴って、内部留保資金も減少傾向にあることがわかります。

### 内部留保資金と当期純利益の推移



令和2年度から令和3年度にかけて留保資金が大きく減少しているのは、国債を購入したことで流動資産が固定資産になったことが影響しています。

#### 水道事業の現状

- ・人口減少に伴う、水需要と料金収入の減少
- ・施設の老朽化に伴う更新費用の増大
- ・水道事業を担う人材不足の深刻化等



**厳しい経営環境**

### 3. 経営比較分析（他都市との比較）

経営比較分析表とは、経営及び施設の状況を表す経営指標の経年比較や他公営企業との比較などを行い現状や課題等を分析したものです。経営の現状及び課題を明確に把握することが可能です。

なお、類似団体平均とは給水人口が30万人以上の49団体の平均値としています。

項 目		四日市市		類似団体 平均	備 考
		令和5年度	令和4年度		
収 益 性	総収支比率(%)	106.93	109.97	109.66	総費用に対する総収益の割合。100%以上は黒字、100%以下は赤字。
	経常収支比率(%)	107.19	110.03	109.87	経常的な収支の比率をみるもので、率の高いほど良い。
安 全 性	流動比率(%)	160.19	184.95	228.89	短期債務に対し、これに応ずべき流動資産が十分あるかどうかをみるもので、100%以上であることが必要といわれている。
	固定比率(%)	128.20	128.35	123.06	自己資本に対する固定資産の割合。100%以下が理想の率で率の低いほど良い。高い比率は借入金等で固定資産が調達されている財政的不安を示す。
	自己資本構成比率(%)	71.36	71.56	73.12	総資本に占める自己資本の割合で、率の高いほど良い。比率が高いほどその事業の料金は安く計算される。低いほど財務の長期健全性は悪い。
そ の 他	供給単価 (1m <sup>3</sup> 当り 円)	184.76	184.04	165.60	給水原価に対し、供給単価が高いほど良い。 (供給益が多いほど良い。)
	給水原価 (1m <sup>3</sup> 当り 円)	185.50	179.30	162.47	
	有収率(%)	89.69	91.60	91.76	有収率が低いと無収水量が多いことを示し、施設の利用率が高くても、有収率が悪ければ、施設の効率的使用が図られていないことになる。

このように色々な指標を使って比べることで、他団体

より良好なところや劣っているところがわかります。そうして問題点を見つけて、今後の経営に生かしてまいります。

今後人口減少等に伴い水道料金収入が減少していく中で、厳しい状況が見込まれますが引き続き水道施設の更新や耐震化を推進しつつ、一層の経費削減に努め、健全経営を行ってまいります。

（参考）類似団体数49団体（四日市市以外）

北海道旭川市、福島県郡山市、福島県いわき市、栃木県宇都宮市、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県群馬東部水道企業団、埼玉県川越市、埼玉県川口市、埼玉県所沢市、埼玉県越谷・松伏水道企業団、千葉県、千葉県柏市、千葉県かずさ水道広域連合企業団、神奈川県、神奈川県横須賀市、富山県富山市、石川県金沢市、岐阜県岐阜市、愛知県豊橋市、愛知県岡崎市、愛知県一宮市、愛知県春日井市、愛知県豊田市、愛知中部水道企業団、滋賀県大津市、大阪府豊中市、大阪府吹田市、大阪府高槻市、大阪府枚方市、大阪府東大阪市、大阪広域水道企業団、兵庫県姫路市、兵庫県尼崎市、兵庫県明石市、兵庫県西宮市、奈良県奈良市、和歌山県和歌山市、岡山県倉敷市、広島県福山市、香川県広域水道企業団、愛媛県松山市、高知県高知市、長崎県長崎市、大分県大分市、宮崎県宮崎市、鹿児島県鹿児島市、沖縄県那覇市